

<平成28年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

埼玉県川越市立川越西中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間（50分）



2時限目  
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年11月29日 (火)
- 場 所 : 川越市立川越西中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (37名)、2組 (36名)
- オリンピアン : 酒井 友之 先生 (サッカー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・酒井先生から自己紹介と授業の流れを確認した後、準備体操とボールを使ったウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれて手つなぎリレーを実施。全員が手をつないで輪になり、手をつないだまま走って15m程先に置かれたマーカーを回り、スタート地点まで戻る早さを競う。3回目はボール1個をドリブルしながら進むようルール変更。

4. まとめ



・次の座学の時間では、運動の時間に取り組んだことや考えたこと、工夫したことについて話し合ってもらうので、運動の時間を振り返りながら教室に戻るように伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ 酒井先生が出場したオリンピックや世界大会の映像を流し、自身の競技生活やオリンピック出場時の心境を話した後、クーベルタンを紹介しながら近代オリンピックの復興やオリンピズムの考え方、酒井先生が経験したオリンピックの価値について説明。

3. グループワーク



- ・ 運動の時間を振り返って実践できていたオリンピックバリューを考える。
- ・ 手つなぎリレーでずっと最下位だったが諦めずに全力を尽くしたら順位が上がった、一生懸命取り組んだ（エクセレンス）、班員の気持ちをひとつにした、作戦タイムで話し合って意見を出した、仲間のことを思いやって行動した（フレンドシップ）、相手に敬意を払った、相手チームや仲間へ感謝した、酒井先生への感謝の気持ち（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ グループワークでは運動の時間を振り返って考えてもらったが、オリンピックバリューは普段の生活の中でも大切にしてほしいと話し、目の前の壁は大きければ大きいほど乗り越えた先に得られるものは大きい。夢や目標は思っているだけではなく、実現に向けて段階を踏んで、どのように取り組めばいいかを考えることが大切だと伝える。
- ・ これからみんなもたくさんの人に出会う機会があるので、周囲の人に感謝の気持ちを持って生活してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年11月29日 (火)
- 場 所 : 川越市立川越西中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (37名)
- オリンピック : 内田 翔 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・内田先生から自己紹介をした後、先生の話に対して反応すること、授業を楽しむことを約束して、準備体操に移る。

3. 主運動



・6班に分かれてフラフープリレーを実施。全員が内側を向いて手をつないで輪になり、手を離さずにフラフープをくぐり、2周させる早さを競う。  
 ・作戦タイムを設け、各班目標タイムを設定。

4. まとめ



・フラフープリレーは他の班との競争ではなく、自分たちで設定した目標をクリアするために作戦タイムを設けて話し合い、目標を達成することやチームワークを高めるために取り組んだ。次の座学の時間ではオリンピックバリューについて詳しく説明すると予告して、授業終了。



## ■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



・ 内田先生から、今日はオリンピックに出場して学んだことを伝えると話し、自身の経験に基づいてオリンピックバリューについて説明。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



・ ①目標や夢を達成するためには今後どのように取り組むべきか。②日常生活をより充実したものにするためにオリンピックバリューをどう活かせるか。  
 ・どんなことでも最後までやり通す、新しいことに挑戦する、努力を大切にする、自分なりにベストを尽くす（エクセレンス）、挨拶をする、仲間を大切にする、コミュニケーションをとる（フレンドシップ）、お互いを認め合う（リスペクト）等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



・ 「人生に夢があるのではなく、夢が人生を作る」という言葉を紹介し、夢を持ち、それに向かって一生懸命に取り組んでほしい。夢を叶えることは1人では難しいことも多いが、協力してくれる親や友人に感謝し、ライバルを認めながら努力して、オリンピックバリューをこれからの学校生活に活かしてほしいと伝え、授業終了。